

つまり、今まで学習したことや自分で調べたことなどを比較したり、分類したり、関連づけたりしながら、これまでに経験したことのない問題を解決していく力、そしてそのやり方を他者に分かるように伝える力が「思考力・判断力・表現力」ということになるようです。

今年の全国学調の算数の問題を見てみましょう。いすを使った大問題の3問目と4問目です。

(3) いす4きゃくの重さをはかると、7kgでした。このいす48きゃくの重さは、何kgですか。

求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

(4) 椅子を1列に50きゃくずつ、40列並べるとすると、全部のいすの数は、 50×40 で求めることができます。いすは全部で何きゃくになりますか。答えを書きましょう。

(4) はかけ算の基礎が定着しているかを見る問題で、 $50 \times 40 = 2000$ の計算ができれば正解です。思考力・表現力を求められるのは(3)の方で、答えは84kgになりますが、求め方を書くようにという指示があります。四則計算の技能だけでなく、数学的な考え方を活用して問題を解く力(思考力・判断力)と、自分の考えを他者に伝える力(表現力)が要求されています。

全国学調の問題は、算数が26ページ、国語が22ページあります。いずれも1つの問題をもとに文脈に沿った問題が出され、答えを求めたりそのことについて説明したりすることが要求されています。こうした問題にもきちんと対応ができるような学力を身につけることが今の学校では求められており、それに伴って、授業の在り方も変わってきています。 紙面の関係で、続きは次号に

蛇足ですが…

上の(3)の問題は2通りの考え方ができます。

ひとつは椅子1脚あたりの重さを求める方法で、式としては以下ようになります。

分かりやすくするために敢えて式を2つに分けます。また、分数を使うと計算が簡単になります

$$7 \div 4 = 1.75, \quad 1.75 \times 48 = 84$$

もうひとつは比の考え方をを使う方法です。式は以下ようになります。

$$48 \div 4 = 12, \quad 7 \times 12 = 84$$

$4 : 7 = 48 : x$, $x = 48 \times 7 \div 4$ も同じ考え方ですが、小学校の教科書では扱いません

こんな式に説明の言葉を加えるか、上記の考え方を、表などを使って表すと、この問題は正解になります。

季節の詩

ビルのひま 来たりて わづか轟音の 静まるここに 鯉のぼり舞ふ	田谷 鋭
新聞の 兜を父は 折らんとす 今度五十の 息子のために	藤島秀憲
バンザイの 姿勢で眠り いる吾子よ そうだバンザイ 生まれてバンザイ	俵 万智
かきつばた 扇つかへる 手のしろき 人に夕の 歌書かせまし	与謝野晶子
大きなる 紅ばらの花 ゆくりなく ぱっと真紅に ひらきけるかも	北原白秋

保護者に配付した学校通信には、スポーツ少年団の大会で優秀な成績を収めた児童の紹介をしましたが、ホームページへの掲載は控えさせていただきます。代わりに、この季節にピッタリな短歌を5句選んで掲載してみました。たまにはこんなコーナーもあってもいいかな…。